

ブドウ「シャインマスカット」のかすり症と チャノキイロアザミウマの被害様相の見分け方



ブドウ「シャインマスカット」では、果粒軟化期以降のチャノキイロアザミウマの被害症状と、生理障害であるかすり症との症状が似ています。ここでは、これら症状の判断の目安について紹介します。



圃場での観察方法

かすり症の発生時期は満開75～90日後頃で、糖度が17%に達する頃（露地栽培では9月中旬頃）から発生するのに対し、チャノキイロアザミウマの被害症状はかすり症より早い時期から見られます。

かすり症	チャノキイロアザミウマ
 <p>穂軸が褐変しない</p> <p>症状は果粒全体又は陽向面に出やすい</p>	 <p>穂軸が褐変する</p> <p>果粒と果粒の接触部分周縁にリング状に症状が見られ、発生が多くなると果粒全体に症状が広がる</p>
 <p>症状の色は淡い褐色～褐色（薄墨状）</p> <p>果皮の内部が褐変</p> <p>果粉（ブルーム）溶脱部分とは関係なく発生する</p>	 <p>被害部の色は褐色～暗褐色</p> <p>果皮の表面が褐変</p> <p>果粉（ブルーム）溶脱部分を好んで吸汁する</p>



顕微鏡での観察

実体顕微鏡では50～70倍で、果皮表面に斜め方向から光を当てて観察します。光学顕微鏡では被害部分の垂直方向の切片を作成して400倍で観察します。

実体顕微鏡		光学顕微鏡	
 <p>かすり症</p>	 <p>アザミウマ</p>	 <p>かすり症</p>	 <p>アザミウマ</p>
<p>光をあてても細胞は白く見えない</p>	<p>吸汁された細胞が白く見える</p>	<p>a：表皮細胞 亜表皮細胞が褐変</p>	<p>b：亜表皮細胞 表皮細胞が褐変</p>

注意!

かすり症とチャノキイロアザミウマの被害は併発する場合があります。これら以外にも褐変を起こす類似症状があります。

